

授業公開の報告

教育学部 大 島 丈 志

1. 公開した授業

- *科目名：「日本文学演習Ⅰ」
- *日 時：11月10日（火） 4限
- *教 室：8502

1. 授業公開を行っての感想

(1) 授業の概要と目的

今回の授業公開では、国語専修2年次必修の日本文学演習Ⅰという15名の演習科目の授業を行なった。この科目は、1年次の日本文学概論で学んだ国語教員になる際に必須の日本文学史の知識を生かしながら、国語の教科書に掲載されている物語教材も含め、様々な近現代の短編小説を読解し、発表・質疑応答を行なうというものである。

日本文学演習Ⅰにおいては文学作品の読解と発表・質疑応答を通じて、読解力・語彙力・批評力・鑑賞力・表現力を養うことを目的とした。また、それだけではなく、1年次の導入教育である基礎演習Ⅰで学んだプレゼンテーションの方法、レジュメの作り方、さらには先行研究と自らの意見の区別、注のつけ方など、大学生として必須の技術を再確認し、実践することも目標とした。

演習は基本的に1人1作品論、もしくは1作家論を担当し、発表・質疑応答を行ない、該当時間内で解消されなかった問題点に関しては次の授業の開始15分程度を使ってフォローする形式である。指導者は事前指導と発表後の指導を行い、授業中は進行と解説を担当し、質疑応答の時間には他の学生に質問を促すと同時に自身も質問に加わり、最後にまとめの講評を行なった。

(2) 本時の授業と感想

本時の授業では、まず前回の授業のフォローを行ない、それに関する質疑応答を行なった。その後、芥川龍之介の切支丹ものの一つ「おぎん」の作品論を担当学生が発表した。「おぎん」は短編ではあるものの舞台が江戸時代であり、キリスト教の棄教の問題が基盤になっている作品であるため、学生にとっては作品世界に入りにくい側面のある作品である。

日本文学演習Ⅰでは、学生に発表前に質問があれば研究室に来るように周知しており、事前指導を大切にしている。本時の発表を行なった学生も、2度研究室を訪れており、まず基礎的な知識について研究室にて質疑応答を行い、さらにテーマに関する意見交換を行なった。演習科目であるため学生の主体的な学習が基本的だが、学生がとことんまで考えた上で行き詰ってしまった場合にはアドバイスを行なった。

担当学生は同時代状況について粘り強く調査し、また分かりにくい宗教的なテーマに関し

でも良く理解に努めた。そのため論の根拠と発表者の意見がしっかり主張されている説得力のある発表を行っていた。発表に担当学生の主張が明確に出されていたため、聞き手の学生達からもそれに対して自らの意見を作りやすく、発表者の不足を補い、読みを深めることのできる生産的な質問が多く出され、有益な質疑応答ができていた。

担当学生の発表・質疑応答全体を通して、授業の目標である読解力・語彙力・批評力・鑑賞力・表現力の向上はある程度達成されたのではないかと考えられる。また、レジュメ作りの作法も守られており、基礎演習Ⅰとの接続が順調に行なわれたと考えられる。

(3) 先生方からいただいたご意見と今後の課題

授業後、参観していただいた先生方から非常に貴重なご意見をいただいたので、それに対する考察を通じて今後の課題について考えていきたい。

まずは、事前指導が十分なされているとの内容のご意見をいただいた。ただ本時の演習では、発表担当の学生に熱が入りすぎたこともあり、30分を超える発表となってしまった。これに関しては担当学生が頑張っていたというご意見をいただいた一方で、このような時間の管理では、全受講者に発表をさせることができないのではないかとのご指摘もいただいた。確かに本授業においては、発表は時間厳守で行なうべきという基礎基本を徹底させることが不十分であり、この点は次年度の授業において改善していきたいと思う。

また、質疑応答の方法に関しても有益なご意見をいただくことができた。日本文学演習Ⅰでは、発表者が30分の発表を終え、そのあと、指導者がすぐに聞き手の学生に質問を求め質疑応答に入っていた。しかし、参観いただいた方から、いきなり質問を求めるのではなく、その前に学生同士で数分話しあわせてから質問を求めればどうかとのご意見をいただいた。確かに発表が終わってすぐに意見を求めても、実際は質問がなかなか出ず、最初の数分は指導者自身が質問を行ない、学生の質問が出るのを待つというのが慣例であった。しかし、いただいたご意見を反映させて、授業公開の次の時間から、聞き手の学生にまず周囲のものと数分発表に関する意見交換をし、質問を練るための時間をとってから質疑応答に移る方法を試みたところ、直後に質問を求めていた時に比べ、質問の数が多くなり、さらに質問の質も向上したように思われる。この方法は日本文学演習Ⅰのみならず、その他の授業内でも生かしていきたいと思う。

今回の授業公開では、その他、本当に貴重なご意見をいただいた。これらのご意見は、次年度以降の授業に反映させていきたいと思う。また今後も、授業公開等の機会は勿論、自分自身の授業をできるだけ客観的にとらえることを試み、授業内容を向上させていきたい。

2. 本学における授業改善への今後の取り組みについての意見・感想

授業改善の試みとして授業公開は他の先生方の授業を見て学ぶと同時に、授業公開によって普段気がつかない問題点等に気づくことができ、非常に効果的であると思う。授業公開が次第に拡大し、多くの先生方と授業改善に関する意見交換ができれば、必ずや、多くの授業改善につながるのではないかとと思う。授業改善の試みが着実に拡大していくことが望ましいと考えている。

平成 21 年度 授業公開 授業計画書

2009 年 11 月 10 日(火)4 限

学部	教育	授業者	大島丈志		
授業科目名	単位数	講・演・実	年次	公開教室	
日本文学演習ⅠC	必・選()	演習	2	8502	
本時の目標					
① 日本文学概論（1年）で学んだ日本文学史の知識を活かしながら短編を読む。					
② 作品の徹底的な読み・議論を通じて文学作品の読みの深さ多様さを学ぶ。					
③ 語彙力・読解力・鑑賞力・表現力・批評力の養成。					
④ 先行研究と自らの意見の使い分けの方法を学ぶ。					
本時の内容					
・ 本授業は15人という少人数の演習である。					
・ 本時の中心内容は、芥川龍之介の切支丹もの「おぎん」の作品論発表である。					
・ 「おぎん」の作品論を発表し、作品のメッセージ等を聞き手に効果的に伝達する。					
・ 質疑応答を通じてクラス全体で「おぎん」の読みの深化を求める。					
本時の展開					
・ 導入、前回のまとめ (5分)					
・ 前回の発表内容のフォロー (10分)					
・ 「おぎん」の発表 (30分)					
・ 質疑応答 (30分)					
・ 教員による次回扱う作家横光利一の紹介 (10分)					
・ まとめ、次回の連絡 (5分)					
本時の評価の視点(参観の視点)					
・ 演習発表のルールが守られていたか。					
・ 効果的に作品論の発表が行われていたか。					
・ 質疑応答が有効になされていたか。					
・ 質問用紙が有効に活用されているか。					
・ 教員の作家紹介、発表に対するフォローは適切になされているか。					